



タレント  
江口ともみさん

1968年2月生まれ。東洋英和女学院幼稚園から短期大学まで卒業後、芸能界へ。現在はタレントとしてテレビ、ラジオ、雑誌などに出演。現在は「ビートたけしのTVタックル」(テレビ朝日系)「大改造!!劇的ビフォーアフター」(テレビ朝日系)「第二アサヒジャーナル」(TBS系)など多数のレギュラー出演の他、企業講演会やセミナーなど幅広い方面で活躍。

矯正をしてから自信をもって  
笑えるようになりました

**江口** 私は歯の矯正をして、口を開けて笑えるようになり、自信ができました。きれいな歯並びは人を前向きにしてくれますね。

**浅井** 患者さんへのアンケートでも、治療してよかった点の最も多い回答は「歯を見せて笑えるようになった」です。きれいな歯並びと素敵な笑顔は、人生や生活の質を高めてくれます。

**江口** 昔と違って、技術や器具は進化していますか。

**浅井** 矯正装置のサイズは小さくなりました。それに、白や透明など目立たない色のものが増えて、他人には見えない歯の裏側につける装置もあります。

**江口** 目立たないのはうれしいですね。

**浅井** 最近「アンカースクリュー」という装置が使われます。ピアスのように歯茎に埋め込み、それを固定源にして歯を動かします。従来は治せなかった症状の方も治療できるようになりました。

**江口** 技術が日々進歩すると、扱う歯科医は大変ですね。

**浅井** 講習会などに定期的に参加して、切磋琢磨(せつさくたくま)する必要があります。

**江口** 信頼できる歯科医を見つけるためには、どんな点に気を付ければよいでしょうか。

**浅井** 難しい質問です。日本には約10万人の歯科医がいます。「矯正歯科」と書かれた看板を掲げる診療所は約2万1000カ所あります。けれども日本矯正歯科学会に所属して勉強している人は6300人しかいません。そのうち日本矯正歯科学会の「認定医」は3000人弱です。認定医は、大病院や矯正専門医、治療で5年以上常勤し、10例以上の臨床例と、論文執筆などの条件をクリアしているため、信頼できる一つの目安になります。さらに上級の「専門医」は今のところ約300人程度です。

**江口** 医院の看板に「認定医」と書いてありますか。

**浅井** 看板には表記していませんが、日本矯正歯科学会のホームページで調べられます。富士山に登山道がいくつも存在するのと同じく、矯正にも複数の治療法があります。治療前にしっかりと話し合いを持ち、目的のイメージを共有して、くれる歯科医を見つけてください。

**江口** 幅広い普及活動がされているんですね。

**浅井** 昔は「米国を見習おう」といわれましたが、最近、韓国や台湾、香港の方も歯並びがきれいです。海外のように、日本の社会も、矯正装置を付けた人を「良いこと」にチャレンジしている人」としてリスペクトするようになればと願っています。

対談

大人でも遅くない「歯の矯正」  
美しい歯並びと笑顔で  
前向きな人生を送ろう

NIKKEI丸の内キャリア塾スペシャルセミナー「輝く笑顔で前向きになる—大人の歯の矯正を知る—」(協賛・日本臨床矯正歯科医会)が11月、東京・大手町で開催された。それに先立ち、日本臨床矯正歯科医会会長の浅井保彦さんと、自身も歯の矯正経験のあるタレントの江口ともみさんが、信頼できる医師の選び方などについて、対談を行った。

見た目の美しさはもちろん  
医学的なメリットも大きいのです



公益社団法人 日本臨床矯正歯科医会 会長  
浅井保彦さん

1973年大阪大学大学院歯学専攻修了(歯学博士)。74年熊本大学歯学部助教授(歯科矯正学)に就任。79年、岐阜県岐阜市に浅井矯正歯科開設、現在に至る。日本矯正歯科学会認定医、指導医、専門医。

**江口** やはり若い時に治療すべきでしょうか。

**浅井** 子供は骨が軟らかいので、歯を動かしやすいのは事実です。一方、大人の方は自ら治す意志をお持ちなので、治療への理解や協力が得られやすい。一長一短ありますね。

**江口** 難しい質問です。日本には約10万人の歯科医がいます。「矯正歯科」と書かれた看板を掲げる診療所は約2万1000カ所あります。けれども日本矯正歯科学会に所属して勉強している人は6300人しかいません。そのうち日本矯正歯科学会の「認定医」は3000人弱です。認定医は、大病院や矯正専門医、治療で5年以上常勤し、10例以上の臨床例と、論文執筆などの条件をクリアしているため、信頼できる一つの目安になります。さらに上級の「専門医」は今のところ約300人程度です。

**江口** 矯正治療は長いお付き合いになりますか。

**浅井** 平均して2〜3年と比較的期間が長いので、スタッフが患者さんと良い関係を築くことも大切です。

**江口** 公益社団法人に移行されたと聞きました。

**浅井** 社会にさまざまな情報が氾濫している今、矯正歯科治療に関する正しい情報を伝えるべきと考えました。公益社団法人であれば、社会的な活動も活発にできます。例えば、東日本大震災後、治療途中で担当医が亡くなった患者さんをサポートするネットワークをつくりました。また、経済的理由で治療を継続できなかった被災者の方には、無償で治療を行いました。

**江口** 幅広い普及活動がされているんですね。

**浅井** 昔は「米国を見習おう」といわれましたが、最近、韓国や台湾、香港の方も歯並びがきれいです。海外のように、日本の社会も、矯正装置を付けた人を「良いこと」にチャレンジしている人」としてリスペクトするようになればと願っています。

丸の内キャリア塾スペシャルセミナー

「輝く笑顔で前向きになる—大人の歯の矯正を知る—」

セミナー&  
トークセッション

矯正治療は仕事や結婚、  
出産などと両立できる

11月8日に日経カンファレンスルームで開催されたセミナーでは、専門家による講演、そしてゲストを招いてのパネルディスカッションで、大人の歯の矯正をめぐるさまざまな話題が取り上げられた。

矯正に関する情報発信

冒頭、浅井保彦氏による基調講演では「歯並び・かみ合わせと健康の関係」と題し、歯並びが身体だけでなく精神面の健康にも影響することについて説明する

とともに、日本臨床矯正歯科医会の活動として、技術の向上だけでなく、患者の不安軽減のため、治療の進め方や費用についての情報提供を積極的に実施していることなどが紹介された。

体験談から不安解消

パネルディスカッションでは浅井、宮崎氏にタレントの江口ともみ氏、コーディネーターの町田聖氏(宮崎氏)が壇に立ち、江口氏自身が「あんなに疑問にお答えします」大人の歯の矯正を「知る」をテーマに、自らの体験談やさまざまなアドバイ

をしながら歯のバランスや状態など、正しい歯並びの条件を説明。68歳の高齢者の矯正事例や、歯並びが良い人ほど80歳時に20本以上の歯が残っている例が多いとの調査結果も示された。仕事や結婚、出産などでタイミングが難しいと悩んでいる人にも、矯正治療はそれらのいざれとも両立は可能と後押しした。



スなどが披露された。24歳のときに八重歯を矯正した経験を持つ江口氏は、口を開けずに笑っている自分の写真を見て、自らのコンプレックスに気付いたという。仕事を長期間休む時期があったこと、思い切った治療を受け、治療後の自分の笑顔に「自信を得ると同時に大きな解放感を感じ

た」と語った。同様に矯正の経験を持つ町田氏は、長期に及んだ自分の治療の経験から、医師やスタッフとの相性の重要性を挙げ、「見極めるためには医院などを見学してみることが有効では」と提案した。会場からは「歯を抜かずとも治療はできるのか」という質問も。宮崎氏は「歯はなるべく削らず、抜歯もできるだけ避けるのが現代の流れだが、矯正後の状態を計算して抜歯を勧めることもある」。浅井氏は「治療前にレントゲンを撮って、顎のサイズを測ったり、口元のプロフィールを見たりなど、本人の歯の健康のために最良の治療を念頭に置いて抜歯の判断をする」と答えた。

また治療費用に関しては、60万〜110万円くらいと症状により幅があること、医療費控除が受けられることなどが説明されたが、江口氏、町田氏ともに自らの経験から、長い人生では価値のあるお金のかけ方だと思

よいかみ合わせときれいな歯並びで心身の健康を  
日本臨床矯正歯科医会は  
「正しい矯正歯科治療」に  
取り組んでいます



矯正歯科治療に特化した歯科医を「オルソドンティスト」と呼びます。オルソドンティストになるには、歯科大学に6年通い、臨床研修を修了して国家試験に合格後、大学付属病院の矯正科や矯正歯科開業医のもとで矯正学の理論と臨床に関する専門的な指導を受け、自己研さんを積む必要があります。

公益社団法人 日本臨床矯正歯科医会は、矯正歯科の専門開業医が所属する国内最大の団体。メンバーになるには、5年以上の矯正歯科治

療の臨床経験を有する矯正歯科治療の専従医であることに加えて、所在地区の会員1人を含む会員3人以上の推薦を受けるのが条件です。同会の大きな特徴は患者本位のサポート体制。治療中に転居した場合も、転居先の同会所属の矯正歯科を紹介する「転居システム」を構築しています。治療費は同会の取り決め事項に沿って精算。万が一、主治医が診療できなくなった場合も、会員医院の紹介を受けて治療を続けられます。会員医院はホームページで検索できます。

矯正治療中の方を対象にした写真コンテスト  
「ブレース スマイル コンテスト」を開催

日本臨床矯正歯科医会では毎年、「矯正装置(ブレース)がついた笑顔」をテーマにした写真コンテスト「ブレース スマイル コンテスト」を開催している。「矯正治療に前向きにチャレンジする患者さんの素敵な笑顔を見てほしい」(浅井会長)。

第8回となる2012年度は「がんばる笑顔」をテーマに開催し、全国から248作品の応募があり、大阪府在住の山本広美さんが最優秀賞を受賞した。



2012年度の最優秀賞(上)と優秀賞(右2点)。応募テーマは「がんばる笑顔」

